
1 地域子育て支援拠点の必要性と役割

地域子育て支援拠点充実事業アドバイザー
関西大学 人間健康学部 教授 山縣文治

(1) 地域子育て支援施策が求められる理由

近年、地域子育て支援が求められようになった理由は、大きく3つ考えられます。

第1は、親の事情が変わってきたことです。たとえば、①子育てを身近に見たり、経験したりする機会が減少したことによって、子どもが育つということの実感がなくなってきていること、②細かな保健知識や子育て情報が届けられることにより、主体的な判断ができにくくなっていること、③多様な生き方をすることが尊重される社会となり、子育て以外の生活が重視されるようになってきていること、などです。

第2は、家庭を支えていた地域の子育て力が低下してきたことです。地域は、家族自体を育みつつ、子どもの社会化にかかわってきました。一方、「地域社会の崩壊」あるいは「地域社会の再生」という言葉があるように、機能的意味・お付き合いという意味の地域・コミュニティの危うさが指摘されています。地域社会の機能の一つであった子育ての支え合いも当然弱まっているということです。

第3は、保育所にも幼稚園にも所属していない子どもの多さ、そして、そのことを社会が意識していなかったということです。3歳未満の子どもたちでは、7割が自宅あるいは地域で、毎日の生活を送っています。地域子育て支援の主たる対象は、この層になります。

(2) 地域子育て支援の意義

親子の育ちを支えるという地域子育て支援の意義は、大きく3点あると考えられます。

第1は、現に家族が抱えている問題に現実的に対処することで、問題の軽減や緩和をはかることができるということです。社会福祉の援助原理の一つは、「今、目の前にある問題」に現実的に対処することです。地域子育て支援においてもこのことが求められます。

第2は、親子がひとり立ちしていく過程で出会う、さまざまな問題への対処能力を身につけていくことができるということです。子育て家庭への援助は永遠に継続できるわけではありません。あくまでも、親子がひとり立ちしていくための力を身につけていく過程に関わるということです。

第3は、家族と地域や社会資源を結びつけることによって、地域の一員としての家族を再認識させ、地域づくりそのものに貢献できるということです。コミュニティワークの視点がここでは必要となります。

(3) 地域子育て支援拠点の役割

拠点では、前項で示した意義を実現するための役割が求められます。そのための、①空間整備（個別性が保障される空間と仲間性が展開される空間など）、②備品の確保（子どものための備品、子育てする親のための備品、一人の人間としての親のための備品、保健衛生や安全確保のための備品など）、③支援するスタッフや社会資源の確保（専従者、ボランティア、活用資源・グループなど）が重要な課題です。

山縣 文治氏 プロフィール

関西大学 人間健康学部教授

専門は社会福祉、子ども家庭福祉

日本子ども家庭福祉学会副会長 日本保育学会評議員 日本子ども社会学会理事

日本子ども虐待防止学会運営委員研究分野 子ども家庭福祉